

令和4年度
県大会発表者
作品





宮城県知事賞

【全国大会
審査委員会委員長賞受賞】

私のスタートライン

塩竈市立玉川中学校 3年 ^{あさ}の^ゆ ^き浅野友希

「あ、地震。」

就寝して間もなく、突然の揺れ、枕元に置いたスマートフォンから流れる耳ざわりな音に、私は飛び起きました。

東日本大震災から11年が経過した今年3月16日。福島県を震源とする、マグニチュード7.4の地震が、私の住む宮城県を襲いました。すぐに家族と声を掛けあうと心が落ちつきました。

「緊急地震速報の音、本当すごい。」

「超うるさい音だね。熟睡していても絶対気付く。」

家族と交わした何げない会話が、ふと、私の心にひっかかりました。

「この音を聞くことができない人は、地震の時どうしてるんだろう。」そんな疑問が頭から離れず、気になった私は調べてみることにしたのです。

日本には、いったいどれ位の聴覚障害者の方々がいるのでしょうか。その数は約29万人とされています。この数を聞いて、多い・少ない、どう感じたのでしょうか。

私は、人数の多さに驚きました。というのも、私は今まで、聴覚障害者と呼ばれる人達と接することが無かったからです。

このことを父に話すと、父は、

- ・ 東日本大震災の時に、様々な障害を持つ人達の避難や対応が問題になったこと。
 - ・ 聴覚が不自由な人は、自治体等の防災無線や避難警報の音を聞けず、災害の時に、正しい情報を入力できないまま、逃げ遅れてしまう可能性があること。
 - ・ 父自身、仕事で知り合った聴覚障害者の方と筆談や身ぶり手ぶりを交えながらコミュニケーションした経験があり、手話の必要性を実感したこと。
- そして、社会の中で、ハード・ソフト両面で、バリアフリーの必要性があることを教えてくれたのです。

さらに、父は、私を外へと連れ出しました。

父と一緒に目にしたのは、歩道上の点字ブロック、車椅子や高齢者の為のスロープ付きの通路。エレベーターや案内板の点字表示、そして、視覚障害者用の音響式信号機。

日常社会の中にあふれる、様々なバリアフリーを目のあたりにして、私は、日本に既にある優しい社会環境に気付かされたのです。

私には、多様な人々が暮らす社会への理解がまだま

だ足りない。

そんな私の思いに気付いたのでしょ

うか。

父は、
「互いを思いやり、わかり合おうとしようとする

ことが大事だよ。気付いた時に、どうするかを考

えて、行動に移せばいい。」

と

言ってくれたのです。
地震のあの日、聞いた、緊急地震速報。

私は、その音を聞いた事をきっかけに芽生えた疑問から、自ら調べ、父と学び、様々な障害をとりまく社会の一部を知りました。

そして、今の私にできることは何かと考えた時、一人一人が誰かを支えあえる社会を担う人間になりたいと思ったのです。

まだ知らない誰かを思いやり、行動する。

きっと、ここが私のスタートライン。

私は、手話を学び始めました。

テレビや本など、学び場を探しながら、独学で勉強中です。
私達の暮らす、これからの社会が、より良い未来になるように、今、自分にできること。

少しずつでも一歩ずつ、前に進めるように。

私は、これからも、自ら考え、学び、行動していきます。

みなさんも、何か始めてみませんか。

そこが、あなたのスタートラインです。

● プロフィール ●

好きなことやもの 読書や音楽を聴くこと。
部活が好きです。

苦手なことやもの 虫やお化けは苦手です。

将来の夢 人の役に立ちたいです。



青少年のための宮城県民会議会長賞

私だからできること

気仙沼市立階上中学校 3年 佐藤 ひなた

「SDGsが、やりたいことをサポートしてくれる。SDGsは、君をより遠くまで連れて行ってくれる乗り物なんだ。」

これは、気仙沼に移住し、漁師さんが使い終わった漁具のリサイクルに取り込む加藤さんの言葉です。

海には魚を捕るときに使った網が大量に捨てられています。それらは、海洋プラスチックとなって海を汚染します。また、投棄された網にアザラシやカメなどの海洋生物がからまって命を落とすこともあります。加藤さんは、そんな漁網を回収し、生地にして、服やカバンを作ることを考えたのです。

私は、学校の探究学習で、海洋ゴミについて調べています。インターネットによると、海洋汚染、海水温の上昇、海洋資源の減少など様々なことが分かりました。家族で近くの海のゴミ拾いに行った時には、あまりのゴミの多さに言葉を失いました。ペットボトルや空き缶、ホースや機械のかけら、扇風機の羽までありました。スーパー袋を数枚持って海に向かった自分の甘さを後悔し、インターネットで見ていた世界が、今、目の前の現実として存在していることに衝撃を受けました。

——なんとかしたい。私にできることは何だろう。

そんな時、加藤さんの講話を聞いたのです。私は加藤さんに質問しました。

「海のゴミを減らすために、中学生でもできることはありますか。」

すると、反対に、加藤さんから、「中学生でも、じゃなくて、中学生だからできることって何だろう？」

と問われたのです。はっとしました。

「例えば、SDGsを今やっていることに当てはめる、というより、自分がやりたいことを後押ししてくれるものはどれか、考えてみたらどうだろう。」

私だからできること、自分がやりたいこと……。そうか、好きなこと、得意なことから始めればいいんだ。ぱっと視界が開けたような気がしました。

私は絵を描くことが好き。本を読むことや動画を見ることが好き。そうだ、海のゴミについての動画やパンフレットを作成しよう。それをいろいろな場所に置いてもらい、自主的なゴミ拾いを呼び掛けよう。

この考えを先生や友達に伝えると、「ゴミ拾いを実際にどのくらいの人がしたのか分かるといいね。」

「大人に興味を持ってもらうには、どんな内容にするの？」

と、参考になる意見をもらい、やる気が高まりました。

私は、地域の伝承館で語り部をしているのですが、その活動で、「中学生が真剣に語る姿に胸を打たれた。」「自分の子どもの未来を考えるようになった。」という感想をいただいたことがあります。同じように、海の豊かさを守るために、中学生の私が学び、考えたことを、自ら発信することに意味がある。それを、世界の目標であるSDGsと関係付けることで、より多くの人に伝わり、可能性が広がっていく、そう気がしました。

どんなに大きな問題でも、その解決の鍵は、一人一人の小さな行動にあります。ゴミ拾いも特別なイベントではなく、例えば散歩のついでに、家族とのレジャーの合間に、月1回の習慣に、など生活の一部に組み込むのはどうでしょう。私は、これから、この提案を、自分の言葉で、自分なりの方法で、たくさんの人に伝えたいと思っています。

私だからできることが、きっとある。

● プロフィール ●

好きなことやもの
私は絵を描くこと、本を読むことが好きです。絵は描いていくにつれ、自分の本当の気持ちを見つけることができるので好きです。本は読むことによって、新しい考え方を見つけることができるので好きです。

苦手なことやもの
私の苦手なものは匂いが独特な牛乳です。小さい頃は飲んでいたのでありますが、苦手になってしまいました。ですが、学校の給食では頑張って飲むようにしています。

将来の夢
私の将来の夢はまだ完璧に決まってはいませんが、アスリートを支える職業につくことです。アスリートを支える職業はたくさんあるので、これから調べて夢を明確にしていきたいです。



青少年のための宮城県民会議会長賞

「理解と共生」をめざして

仙台市立七北田中学校 3年 加藤 咲季

「鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。」
金子みすゞのこの詩を私に教えてくれたのは、教育実習の先生でした。この詩から受けた感銘が、姉と心を通わせていく大きなきっかけになったのを、今でも覚えています。

皆さんは「點頭てんかん」という病気を知っていますか。私の姉は生まれてすぐ脳の病気であるこれになり、その影響で発達に遅滞をきたす障害を抱えました。幼い頃はさほど感じていませんでしたが、小学校高学年位の頃から私は、姉の言葉や行動の独特さに苦手意識を持つようになりました。ささいな事で大声を出す。思い通りにならないとパニックになってしまう。そんな姉に、どんなに抑えても怒りがこみ上げてくる日もありました。

耐えきれなくなったある日、私は思わず、「お姉ちゃんなんか、いなきゃよかった！」こんな言葉を姉に浴びせてしまいました。すると姉は非常に驚き、悲しそうな顔をしました。そして突然、部屋を出て行ったのです。私は自分を恥じました。そして一晩眠れませんでした。ところが次の日姉は、何もなかったかのように「おはよう。」と接してきました。私は拍子抜けです。姉の寛容さを喜ばず、納得できませんでした。わだかまりの方が大きくなる私は、だんだん姉との関わりに苦むようになっていきました。

そんな私の心を変えてくれたのは、中2の春にやってきた教育実習の先生でした。先生は大学で発達障害について学んでいるとおっしゃったのです。それを知って私は、勇気を出して姉のことを打ち明けてみました。その時先生から言われたことが忘れられません。「発達障害で最も大切なことはね、その人の良さを理解することと、その人に合った支援をして一緒に歩む、ということなんですよ。」

私ははっとしました。姉妹なのに自分は今までどうしてきただろう。姉の行動に不満を持ち、怒ることの方が圧倒的に多かった。姉の明るさや優しさを認めたり、感謝したりなどしてこなかった。自分が一番無理解で思いやりがなかったんだと、初めて気づきました。

私は先生から教わったことを、少しずつ家で実践し始めました。姉と話す時は、曖昧な表現をしない、具体的に伝える、話は最後まで聞く、こだわりも尊重してあげる、などです。すると、姉との会話が以前よりずっと弾むようになりました。心の通う瞬間も感じら

れる位に変わっていったのです。

同時に私は、発達障害についての本を初めて開いたり、母にも聞いたりして、少しずつ学ぶ努力を始めてみました。そこで改めて必要だと分かったことがありました。それは、「理解と共生」です。

姉は今障害者雇用で働いていますが、職場でも日々、色々なことが起きるようです。悪口、差別、嘲笑……姉への無理解は、社会に出てもあちこちであり、これらの偏見と闘わなければいけない状況でもあります。

しかしそこで思い出すのは、実習生の先生が教えてくれた金子みすゞの詩の一節です。

「みんなちがってみんないい。」

現代は多様性を尊ぶ動きの高まっている時代です。お互いの違いを理解し、違うからこそ手を取り合って共に生きよう、そう考えれば、社会はもっと温かく、生きやすいものになっていけるのではないのでしょうか。この世の全てのものは皆同等の価値を持ち尊い、というこの詩の思いを私は再びかみしめました。

私は将来、この「理解と共生」のために少しでも役に立つ働きをする人になれないか、と考えています。私達の願いの先に、必ずお互いが手を取り合える明るい未来が待つと信じたいです。それを目指して、私はまず姉と笑顔で会話する。ここから始めよう、と決意しています。

● プロフィール ●

友達と一緒に過ごしている時間です。友達と話している時は明るい気持ちになります。

大勢の人の前で話すこと。でも、学校の代表として選んでいただいたので頑張りたいと思います。

将来の夢
まだはっきりとは決まっていませんが、将来どんな人にも優しく手を差し伸べられるような人になりたいです。



優 良 賞

素直な心で

仙台市立田子中学校 3年 ^{えん}遠 ^{どう}藤 ^ま茉莉 ^{りか}

「茉莉って、本当素直じゃないよね。」

中学生になって、母と私は言い争いをすることが多くなりました。この日もまた母から「素直じゃない」の言葉。勉強や部活のこと、習い事や学級委員のこと。原因は様々です。

「お母さんはいつも素直、素直って言うけれど、素直って何。何でもはいはいって言うことが素直なの。」

そう言い返しつつも「確かにそうだな。」と感じる自分もいました。

「あんたの『はい、そうです』は、ただ言っているだけ。心から思って言っていないでしょう。」

何でだろう。注意されたからちゃんと謝罪したのに。

母の言うことがいまち腑に落ちないまま時間だけが過ぎていきました。心が晴れないまま塞ぎ込んでいたある日、友達の誕生日が近づいていることに気づきました。当日は、手作りの誕生日カードを渡すことにしました。友達は、そのカードを受け取りながら満面の笑みで、

「ありがとう、茉莉。」

とってくれたのです。時間がなくてプレゼントが買えず、せめてもと思い、渡したカードでした。そんなに喜んでもらえるとは思っていなかったのに、友達の笑顔と感謝の言葉で自分まで嬉しくなりました。私の気持ちを受け取って伝えてくれた友達の「ありがとう」が、母が言っていた「素直」なことなのではないかと少し分かったような気がしました。

自分が今まで言っていた「ごめんなさい」や「はい、そうです」は、母からよく思われたいという、その場しのぎの言葉であり、その場を取り繕おうとしてただ言っていただけだったのです。

だから、母に言われたことも最初から拒否するのではなく、まずは素直に受け止めてみることにしました。いつものやりとりの中で

「確かにそうだよね。」

と言うと、あまりの変わりように母は目を見開き、驚くばかりでした。

「素直」という本当の意味に気づいた今、私はいつも素直な気持ちで言葉を伝えるようにしています。

今年の合唱コンクールでピアノ伴奏だった私は、遠慮がちに歌うクラスメイトが気になっていました。みんなの歌がもっと良くなってほしい、自信を持って歌ってほしい、その一心で声をかけたとき、「茉莉の言葉は魂が籠もっていいよね。」と言われました。思

い返すと、昨年の運動会では「茉莉ちゃんの応援があったから、私も頑張れたんだよ。」と言われたこともありました。自分の思いを真っ直ぐに伝えようと言葉に表すと相手の心まで届くのだと思います。

みなさんの中にも私と同じように、自分の中では思っていないことを言葉として、ただ発している人がいると思います。確かに、言葉を発することは大切です。しかし、その場を取り繕うために言った言葉は、相手の心には届きません。あくまでも言葉は自分の意志表示をする手段の一つにすぎないからです。立ち居振る舞いや態度、表情、行動に心のあり方が表れると思います。大事なことは相手から言われたことを素直に受け止める心、さらに自分の中で納得したうえで言葉にすることではないでしょうか。素直に認めなければ新しい自分になることはできないのです。

私は、心からの言葉で語れる人になりたいと思います。素直な心から語られた言葉は、人の心を動かす力があります。みなさんも「素直な心」で対話をしませんか。

● プロフィール ●

好きなことやもの
読書やピアノを弾くことが好きです。読書は、様々なジャンルの本を読みます。オススメは、東野圭吾さんの「白夜行」、凧良ゆうさんの「流浪の月」です。ピアノは、小学2年生の頃から始めました。とても楽しく練習しています。

苦手なことやもの
数学科と英語科が苦手です。基本問題は解けるのですが、応用になるとすぐ分からなくなります。ですが、今年は受験生なので、少しずつでも点数が上がるよう予習・復習を頑張っています。

将来の夢
将来は小学校か、中学校の音楽の先生になりたいと思っています。そのためにも、苦手教科を克服してすべての教科が得意になるよう一生懸命勉強したいです。



優 良 賞

命のバトン

大河原町立大河原中学校 3年 ^{おさ}長 ^だ田 ^{ふう}楓 ^か花

みなさんは、お墓参りに行ったことはありますか。お墓参りとは、ご先祖様を供養し感謝することです。しかし、ただ親に誘われたから行くだけ、お墓が遠くにあると行くのが疲れるなどの理由で、お墓参りを内心面倒だと思っている人はいませんか。実は、私もその一人でした。

私は毎年お盆に、祖父のお墓参りに行きます。祖父は私の父のお父さんです。片道約3時間、車内ではいつも両親と姉が、祖父の思い出話で盛り上がります。お墓に着くと3人は、慣れた手付きでお参りの準備をしながら祖父のお墓に話しかけます。しかし、私は聞いているだけでした。なぜなら、祖父は私が生まれる前に亡くなっていて、思い出が全くなかったからです。

中学2年の夏、その時のお盆はいつもとは違い、私の心は重く沈んでいました。同居していた祖母が亡くなり、新盆を迎えたからです。わが家では、祖母のことを「ばあ」と呼びます。ばあは私の母のお母さんです。色白で顔が小さくて背が低くて細身だったばあは、ご飯を食べるのも歩くのもゆっくりで、見た目は物静かなおばあちゃんでした。しかし実際のばあは、大きな声で笑ったり怒ったり、感情が豊かで、少し口うるさい人でした。

「手洗いうがいのはしたの。宿題は終わったの。ピアノ練習したの。早く寝なさい。」

小さい頃から口癖のように言うばあに、中学生になってからは聞こえないふりをするようになりました。するとばあは決まって、

「楓ちゃんはお耳がなくなったみたいだね。反抗期なのかな。」

と、少し呆れ顔をしながら微笑むだけでした。ばあに對し、なぜか素直になれず困らせていましたが、そんな私をいつもと変わらず受け入れてくれる優しいばあが大好きでした。あの日も、読書に夢中になっていた私は、ばあに話しかけられてもそっけない返事をし、会話をさえぎりました。そしてあの夜に限って、ばあに「おやすみ」も言わずに寝てしまいました。真夜中、父からばあが亡くなったと告げられました。あまりにも突然のことで、頭の中が真っ白になり、私は言葉を失いました。

それからの私は、ばあの写真を見るたび、悲しみとともに、あの日の自分の言動や態度をずっと後悔するようになりました。

(なんであの時、ばあのお話をちゃんと聞いてあげなかったんだろう。ばあの優しさに甘え過ぎていた。謝りたい。)

ばあへの深い罪悪感と悲しみから、私を救ってくれたのはお坊さんでした。

「おばあちゃんは、楓花ちゃんが苦しんでいることを悲しんで心配しているよ。おばあちゃんにその気持ちは伝わっているよ。」

私の暗い心の中に光がぱっと差し込み、ばあとの楽しかったたくさんの思い出が、私の中にどんどんあふれ出し、辛い気持ちが押し流されていきました。

「おばあちゃんの一番のご供養は、家族で思い出話をたくさんしてあげることです。」

お坊さんの言葉は、悲しんでいた家族みんなの心を、優しく、軽くしてくれました。

ばあの新盆を無事終え、翌日は祖父のお墓参りに行きました。今まで私は、会ったことのない祖父やご先祖様に、自分がお参りする意味があるのかなと疑問をもっていました。しかし祖母の死を通じて、祖父への思いと、お墓参りの意味を理解することができました。

両親は勿論、祖父母やそう祖父、その先のご先祖様に守られながら、私がここに存在することを意味します。どこかで途切れることは決してありません。だからこそ、そのつながりに感謝し、忘れないことが大事です。

今ここに、「命のバトン」を受け継いだものとして先祖を敬う心を大切にしていきたいです。

● プロフィール ●

好きなことやもの 幼少期の頃から本を読むことが好きです。ジャンルにはこだわらず、本屋で面白そうなのを探します。本に囲まれた至福の時間も楽しみのひとつです。一番の愛読書は「図書館戦争」です。

苦手なことやもの 家族いわく、小さい頃は普通に食べていたらしいのですが、きのこ全般が苦手です。見た目、匂い、味、食感、全てにおいて無理です。きのこが菌類だと知って苦手意識がでたのではないかと、自分では分析しています。

将来の夢 将来は教育関係の職業につきたいです。きっかけは幼稚園の先生との出会いです。いつも元気で優しい先生が大好きで、いつしか憧れるようになり、今は「先生」になることが夢になりました。



優 良 賞

私と「個性」

登米市立津山中学校 3年 ^{さくら} 櫻 ^だ 田 ^{あや} 彩

皆さんはマクドナルドの店頭募金が何に使われているのか知っていますか。募金箱があるのはわかるけど何に使われるかは知らないという人や、そもそも募金箱の存在も知らないという人もいるかもしれません。実は、「ドナルド・マクドナルド・ハウス」という、病気と闘う子どもとその家族のための滞在施設に使われています。ハウスは建設から運営まで寄付や募金、そしてボランティアの方々の支援によって支えられています。私もこのハウスにお世話になった一人です。食物アレルギーの検査入院で何度か利用しました。

食物アレルギーとは、私たちの体にそなわる、異物などから身を守るための免疫というしくみが異常を起こし、本来体の栄養となるはずの食品を体が異物として認識し、発疹や呼吸困難などの症状を起こしてしまう状態のことです。たまに好き嫌いや勘違いされますが、場合によっては命に関わることもあるのです。私自身、小さな頃にアナフィラキシーショックを起こし、呼吸困難に陥り意識がもうろうとしたことがあります。

14年間、アレルギーと一緒に生きていると、周囲からは「可哀想だ」と言われることがあります。確かに他の人と同じ物を食べられる人に比べたら、苦労することはたくさんあります。何をすることも、どこへ行くにもアレルギーはつきまといまわすし、お菓子一つ買うにも、パッケージ裏側に記載される食品表示を確認しなければなりません。食べ物を買う、ただそれだけの些細なことにも手間がかかってしまうのです。

しかし、私は自分を可哀想だと思ったことはありません。なぜなら、私にとっては「アレルギーであること」が普通で、食品表示を確認することが普通だからです。私にとっては、アレルギーだという事実より、アレルギーだから「可哀想だ」と決めつけられてしまうことの方が悲しいです。だって、アレルギーは私の一部で、「個性」なのですから。

とは言っても、自分にはないハンディキャップを背負っている人のことを可哀想だと思ってしまうのは仕方ないことかもしれません。

世の中にはドナルド・マクドナルド・ハウスのような支援団体があり、私のようにハンディキャップを背負っている人達を支えてくれており、それはとてもありがたいことです。

アレルギーはそう簡単には良くなりません。だからこそ、自分の「個性」としてアレルギーと向き合い、最善の付き合い方を考えていきたいです。

あるスイーツのお店で初めて、食物アレルギー対応の、きれいにデコレーションされたケーキと出会いました。その時のうれしさを、他のアレルギーを持つ人にも届けたいと思っています。そして、もし可能であれば、アレルギーに対応したスイーツを作りたいと思うようになりました。健常な人も、アレルギーを持っている人も皆が笑顔になれるようなスイーツです。

食物アレルギーがあっても、気にしないで食べられるスイーツを作ることで、私のようにアレルギーを持つ人達を笑顔にできれば、アレルギーの人が可哀想だという考えも薄れていくのではないかと考えています。食物アレルギーは個性だと、誰もが考える世の中になるよう、何年かかっても、頑張りたいと思っています。

● プロフィール ●

好きなことやもの 私は読書が好きです。理由は、本を読むことで、自分とはまた違った様々な人の考えを知ることができるからです。

苦手なことやもの 私が苦手なものは水族館です。理由は、暗闇と大きい水槽が怖いからです。

将来の夢 私は将来、アレルギー対応のパティシエになりたいと思っています。理由は、私がケーキを食べた時に感じたうれしさを同じ食物アレルギーを持つ人に届けたいからです。



優良賞

笑顔で Hello!

松島町立松島中学校 3年 ^{たか}高 ^{はし}橋 ^り利 ^な奈

世界へ羽ばたく職業。生まれ育った町、松島で、私はそんな仕事に就けたらと思います。なぜ、そう思うようになったのか、そのきっかけは、小学校4年生の時まで遡ります。

私はその頃から英語を学び始めました。最初はただ「楽しそう」という理由で始めた英語。ですが、徐々に自分の言いたいことが表現できるようになると、私にはある思いが、芽生え始めたのです。「もっと知りたい！もっと深めたい！もっともっと話したい！完璧な英語で！」

その思いを心に宿した私は、英語検定などにも積極的に挑戦し、完璧な英語で会話ができる未来を夢見るようになりました。

そして、中学2年のある日、転機が訪れました。中高生が集まる1泊2日の英語体験ツアーに参加することになったのです。それは福島県にある、ブリティッシュヒルズで行われました。そこでは中世イギリスの街並みが再現されており、完璧な英語を話せるようになりたいと思っていた私にとっては、絶好のチャンスでした。

それからというもの、「やっと英語を堪能できる日が来た！いっぱい学びたい！いっぱい感じたい！」という思いは、日ごとに強くなる一方、「きっと私なんかより、上手に話せる人が、たくさんいるんだろうなあ。外国人の先生と全然話せなかったらどうしよう。」というような不安は、期待よりもはるかに大きくなっていきました。

そして迎えた当日。やはり、想像したとおり、私と同年代であるにも関わらず、英単語を自由自在に操り、英会話を楽しんでいる人がたくさんいました。私はその光景に圧倒され、思わず「やっぱり私なんか、まだまだ勉強不足だ。」と自信を失いかけていました。しかし、そのとき、出発前の気持ちが、私の脳裏を駆け巡りました。「もっと知りたい！もっと深めたい！もっと話したい！」この純粋な気持ちが、自信のない私を奮い立たせました。ここで諦めては、わざわざ参加した意味がない。意を決し、外国人スタッフにたどたどしく「ハロー」と声をかけてみました。すると「Hello」と挨拶が返ってきたのです。そのとき、私は痛感しました。そう、カンペキである必要はないのだと。

私はそれまで、完璧な英語を話さなければ、言いたいことは伝わらないと思っていました。確かに、相手に、より分かりやすく話を伝えようとする努力も必要

です。しかし、「カンペキ」じゃなくたって思いは伝わるのだと、この「ハロー」が教えてくれたのです。

誰も最初は、上手に話せないもの。だから、「英語なんてできないし…」と、自分に壁をつくる必要はないのです。心を柔軟に開いて、笑顔で「ハロー」。それだけで、誰とでもコミュニケーションをとることができます。たった一言の小さな挨拶。それが、世界を変えていくきっかけになると、実感することができました。

日本三景でもある松島は、今年、過疎地域に認定されてしまいました。世界的にも有名である松島が、このような状況になったのは悲しいことです。私は、自分が踏み出した小さな一歩で、大好きな松島と世界の人々をつなげたいという夢を持つようになりました。これからの時代は、今まで以上に多種多様な生き方や価値観が求められるはず。だからこそ、英語という一つのツールで、世界と、私の大好きなふるさとをつなげ、松島を世界に誇れる町にしていきたいのです。私が踏み出した小さな一歩。この小さな一歩に、ふるさとの大きな未来をたくし、明日もこう呼びかけます。笑顔で「ハロー！」

● プロフィール ●

好きなことやもの 英語、読書、新しい知識をつけること。

苦手なことやもの 数学、自分の気持ちを上手く表現すること。

将来の夢 地元をより魅力的にする仕事につくこと。英語を使って世界と松島をつなぐこと。誰もが安心して過ごせる街をつくること。



優良賞

本気になって

仙台市立沖野中学校 3年 ^{あら}荒みちる

「本気で」という言葉を耳にすることはよくあると思います。私はこれまで、何かに本気で打ち込んだことがありませんでした。

去年の7月、私は趣味でダンスを習い始めました。半年ほどたった今年の5月、発表会に参加することになりました。発表会に出れるという嬉しさがある反面、足を引っ張ってしまうのではないかという不安もありました。私はチームの中でも一番経験が浅い初心者だったからです。喜びと不安が交差する中、発表会に向けて練習が始まりました。

いざ練習が始まると、私は自分の力のなさがぐずんとしました。同じ振り付けで踊っているのに、周り比べて動きが小さくて迫力がないのです。「もっとかっこよく踊りたい……」そう思い、私は何時間も自主的に練習をするようになりました。それだけでなく、チームの仲間を動画で撮ってそれを見て更に練習して経験の差を埋めようと、自分なりに工夫しました。ですが、何か違います。一つしか歳のない女の子が切れ味のあるかっこいいダンスをしているのを見て、かっこよく踊れない自分が悔しかったし、一緒に踊るのが恥ずかしいくらいでした。

「悔しい」この思いを糧に、家でも毎日1時間以上は必ず練習をするようにしました。分からないところがある時には、歳下の子にも聞いたり、教えてもらったりしました。うまくいかない時には、発表会を投げ出したいと考えるようになりました。そんな時先生が、「新しい気づきや、学べることがあると思うから、ランクの高いレッスンに行ってみたら。」と声をかけてくれました。私とは比べものにならないくらい上手な人たちとのレッスンで、とまどいましたが、参加することに決めました。そこから学べたことも多く、どう改善したら良いか、というヒントもたくさん教わりました。私はこのレッスンに参加して気付きました。みんな何年も諦めず本気で取り組んでいるからこそ、こんなにもうまいのだと。私には、最後までやれるだけのことをするという覚悟が足りなかったということも思い知らされました。

そんな中、私にもついに転機が訪れます。配置決めの際に最初の曲のセンターに抜擢されたのです。ほんの数10秒間だけのセンターでしたが、私にとっては大きな一歩でした。頑張ればいつかは報われる。そう思えた瞬間でした。ここからは更に本気で練習を進めていきました。センターという役目を果たすために、家でも同じ振り付けを何回も練習したり、「やりすぎだと思うくらい大きく、激しく表現する。」という先

生からのアドバイスを実践したりしました。「いいね」と先生から声をかけられることも増え、上達していると実感できるようになりました。苦悩したこともたくさんあった一方で、練習の時間が楽しみに変わったのです。

そして向かえた当日。出番は4番。発表会までの間はずっと緊張していました。いよいよ私たちの番です。舞台上がった途端、あたり一面がキラキラ輝いているように見え、笑顔がこぼれました。仲間と本気になって練習したからこそ、ステージを楽しむことができました。「発表会が終わってほしくない、まだまだこれから練習を続けたい」そう思いました。踊り終えた時の清々しい気持ちはこれまで感じたことのなかった達成感でした。

「本気で取り組む」とは、弱い自分に負けそうになったり、つらいことから逃げ出したいと思ったりしても、諦めない覚悟を持つことです。苦悩することもいつか自分の力になります。そうして積み重ねた努力の先に、味わったことのない達成感が待っています。そして、その達成感が次の目標や新しいことに本気で取り組む力になっていきます。

その後、私は合唱コンクール実行委員になり、クラスの仲間と本気になって合唱の練習に取り組みました。賞は取れなかったものの、今まででは感じられなかった達成感を、みんなで味わうことができました。私はこれからもいろいろなことに挑戦し、本気で挑んでいきます。素晴らしい何かに出会うことができると思うから。

● プロフィール ●

好きなことやもの ダンス・トランポリンをすること。楽しいこと。音楽を聞くこと。いろいろな人と話したり、関わったり、友達を作ること。

苦手なことやもの きらいな教科を勉強すること。

将来の夢 スタントマン・パルクールをする人・スカイダイビング or スキューバダイビングのアシストする人。



優 良 賞

「違う」って当たり前

あさ ぬま み ゆ
仙台市立長町中学校 3年 浅 沼 心 結

「ツギノカタドウゾ。」

コンビニエンスストアのレジに並んでいた私は、一瞬足が止まりました。私を呼んだレジの方は、肌の色が黒い黒人の方でした。会計が進んでいって、その方が私に何か話しかけてきました。カタコトの日本語で、私はその言葉が聞き取れませんでした。「もう一度お願いします。」と聞き返しましたが、2回目も聞き取れませんでした。これ以上聞き返すのは申し訳ない、レジの方も一生懸命伝えようとしている、私の後ろにも並んでいる人がいる。この状況で、私の頭の中には「レジ袋」という言葉が思い浮かびました。とっさに「大丈夫です。」と答えましたが、レジの方からの反応はなく会計は進み、最後にレシートが手渡されました。手渡してきた手は指先まで黒く、無言で見つめてくる瞳に、私は「怖い」という感情を抱きました。

その日の夜、ふとコンビニでの出来事を思い出しました。あのとき抱いた「怖い」という感情は、自分の心の中で無意識に黒人差別が起きているのではないか。そう気付いて、悲しくなりました。まただんだんと、私達人間の一人一人の中に、自分と違う人間を否定したり、受け入れなかったりする感情があるのではないか、とも思ってきました。

私達人間は、なぜ自分と違う人々を受け入れられないのでしょうか。自分と違う人を受け入れられないばかりか、敵対視してしまうことによって「差別」が起きてしまった歴史があります。

黒人差別を例にすると、17世紀初め、アメリカに、アフリカから「奴隷」としてたくさんの人々が連れてこられたのが始まりです。なぜなら、その頃のアメリカでは土地を豊かにするための労働力が不足していたからです。その後、フロリダ州で「ジム・クロウ法」という有色人種への差別的な法律や、人権を否定する内容の法律が定められました。その内容には、白人女性看護師のいる病院には、黒人男性患者は入れてはいけない、白人と黒人の結婚は禁止、学校も別、など他にも多くありました。

みなさん、あまりにもひどいと思いませんか。しかし、これは、私達人間が自分と違う人々を受け入れない感情が原因だと、私は思います。

悲しい過去や過ちを繰り返さないために何ができるでしょう。私ははじめ、様々な人に平等である法律を、世界各国で作ればよいと思っていました。しかし、周りの人と話していくうちに、自分たち一人一人にも変

えていけることがあると確信しました。人と違うのは当たり前だと考えることです。さらに、自分と違う相手がどういう考えなのか、何を伝えたいのかを理解しようとするのが、少しでも変わるきっかけになると、私は思います。

あのときコンビニのレジで黒人店員と向かい合った私は、「怖い」という感情は拭いきれませんでした。しかしあのときの私は、店員さんが伝えようとすることを必死に汲み取ろうとしていました。

私たちが向き合うべきは、過去によってつくられたイメージではなく、今を生きる一人一人です。これから私は、人と違うのは当たり前だと考え、目の前の人としっかり向き合っていきたいと思います。両親がくれた私の名前「心結」は心を結ぶと書きます。これからの人生で私と出会うすべての人と分かり合い、心を通わせていきたいです。

● プロフィール ●

好きなことやもの
私の好きなものは、K-POPと踊ることです。K-POPとは韓国アイドルのことです。聞いていると、とても弾んだ気分になる曲や涙が出るほど感動するものがたくさんあり、アイドル1人1人が魅力にあふれています。また、その曲のダンスを見て踊ることも好きです。

苦手なことやもの
私は何かを継続して取り組むことが苦手です。例えば、「毎日勉強を1時間するぞ!」と決めても途中で諦めてしまったり、「腹筋を毎日10回するぞ!」と決めてもなかなか続けられなかったりします。この弱点を直し、また何か自分のめり込めるものを探していきたいです。

将来の夢
私の将来の夢は、まだ詳しく決まっていませんが、英語に関係する職業に就きたいと思っています。私は幼い頃から英会話スクールに通っており、英語を通して異国のの人々とコミュニケーションをすることが大好きです。将来は、この経験を生かしたいと思っています。



優良賞

ドラマに恋して

仙台市立五城中学校 3年 児玉綾乃

夢中でドラマを見ていたある日、「いつまで見てる気なの？勉強しないの？」と、家族に叱られました。私は、なんで怒られなくちゃいけないのだろうと思いつつも、そっとテレビを消しました。多くの人は、私が怒られるのも仕方ないと思うでしょう。しかし、ドラマに恋する「ドラ恋」の私は、世の中のドラ恋視聴率を上げたいのです。私は、知ってほしい。ドラマからは、多くのことを学べます。

まず、色々な職業について知るきっかけになります。今まで興味のなかった職業や知らなかった職業について知れば、その仕事の大変さがわかり、仕事をしている人に対する感謝の気持ちが生まれます。また、職業を知ることにより、新たな夢や目標を持つこともできるのです。

私は、ある医療ドラマと出会ってから、フライトナースになるという夢を持つようになりました。私は、以前から看護師になりたいと思っていたのですが、ドクターヘリに乗って現場へいち早く向かい、より高度な知識を使って医師のサポートをするフライトナースに憧れるようになりました。

その医療ドラマでは、4人のフライトドクターと1人のフライトナースが中心となって物語が進みます。印象に残っている台詞は、「助けた患者は忘れていい、救えなかった患者だけ覚えておけばいいんだ。」ドラマの中では、うまくいったことだけでなく、大きな挫折も描かれているため、どれだけ大変な仕事なのかよくわかりました。

また、このドラマを見て、仲間と共に困難を乗り越えた先に、多くの患者さんの笑顔が待っていることに気がつきました。私は、フライトナースになる夢を叶えるために、自主的に勉強を始め、うまくいかなくても諦めずに頑張れるようになりました。その結果、成績が少しずつ上がり、夢に一步近づくことができています。

ドラマは、今まで知らずにいた、社会で起こっている問題に、関心を持つきっかけにもなります。ニュースや新聞だけでは理解しにくいことも、ドラマでは実際に俳優さんが演じているので、イメージがしやすくなります。

例えば、環境の大変化によって日本に住めなくなるというドラマがありました。性同一性障害の人物の心情を描くドラマがありました。新しい見方に出会うことで、知識が増えたり、物事を自分事として考えたりできるようになります。

主人公の目線だけでなく、他の役の人の考え方や気持ちなどが丁寧に描かれているドラマがあります。見てみると、捉え方や感じ方は、人それぞれでみんな違うことがわかります。

このことを理解できるだけで、普段の人との接し方が変わってきます。例えば、話し合いで自分の意見と異なった考えを持った人がいたとき。頭ごなしに否定するのではなく、一度相手の意見を受け入れてみようと思えるかもしれません。

このように、ドラマから得られることは実に深いのです。しかし、見過ぎると、問題が起きてくるのも事実です。調べてみると、長時間のテレビ視聴は、一方的に情報が入ってくるため、脳が思考停止状態になり、思考力が低下するということがわかりました。また、私の家族が心配するように、テレビを見過ぎることによって、勉強時間がなくなるなどの問題も出てくるでしょう。怒られてしまっただけでは、やる気も失われてしまいます。

「ドラ恋」の私も、1日1時間までと時間を区切り、目的を持ってドラマを見ていこうと思います。そして実は、私を注意する家族も皆、ドラマが好きなので、感想を和気あいあいと語り合う、平和な時間を大切にしていきたいです。

是非、皆さんにもほどよいドラ恋をおすすめします。きっと、失敗しないので。人生を変えるきっかけと出合えるかもしれません。

● プロフィール ●

好きなことやもの

テレビでドラマを観ること。You tubeを観ること。バレーボールをすること。読書。好きな有名人の応援をすること。人とコミュニケーションを取ること。

苦手なことやもの

整理整頓。細かい作業をすること。牛乳を飲むこと。絵を描くこと。

将来の夢

バレーボールの選手として活躍し、その後フライトナースになること。これらの仕事に就き、大きなスクリーンとドラマのDVDを大人買いし、休日は大画面でドラマを観て、その世界を満喫する。



優 良 賞

「惜しみなく」

石巻市立河北中学校 3年 ^{こん}今 ^の野 ^み海 ^ゆ結

あなたには、大切にしている言葉はありますか？私にはあります。それは「ありがとう」です。

昨年の10月、大好きな祖父が亡くなりました。祖父は病気のため一昨年から入院していましたが、新型コロナウイルスの影響で、学校がある平日しか面会することが出来ず、約1年間会うことができませんでした。リモート面会の度に、祖父は毎回笑顔で手を振っていました。小さい頃から、お小遣いをくれたり、ランドセルを買ってくれたり…私のためにたくさんのことをしてくれました。しかし、突然の入院。中学生となり、土日も部活動で忙しくなった私は、祖父に会う機会が少なくなっていました。「おじいちゃん、大好き」「ありがとう」小さい頃は惜しみなく言えた言葉も、その頃は素直に伝えられず、何かしてもらったときも、そっけない態度を取っていました。

次に会ったとき、次に会ったとき…と先延ばしにした結果、感謝の気持ちを伝えることができないまま、祖父と永遠のお別れをすることになりました。

「小さいときから可愛がってくれてありがとう。おじいちゃんの人生の中の、少しの時間だけど、一緒に過ごせて本当に良かったです。ありがとう。ゆっくり休んでください。」

葬儀の場で、家族を代表し、私は祖父にお別れの言葉を言いました。ずっと伝えたかった言葉。でも、本当は、生きていた祖父に直接伝えたかった言葉。大切な人は、いついなくなるか分からない。だからこそ、そのときそのときの思いをきちんと伝えなくてはならないのだと学びました。

その頃学校生活では、私は所属しているバレー部の部長になりました。同じ学年の仲間は私を含めて3人だけ。後輩たちをどうまとめていけばいいのか、不安もありました。そんなとき、私がしたのは「ありがとう」を伝えることです。道具の準備をしてくれた、モップ掛けを率先して行ってくれた、ボールを拾ってくれた…どれも自分が1年生だった頃、当たり前に行ってきたことでしたが、後輩たちの取り組みを見て、「ありがたい」と思いました。だって3人だけではバレーはできません。後輩たちもいて、初めてチームとなれるのです。すると、初めは遠慮がちだった後輩たちも、徐々に自分から行動してくれるようになりました。そしていつしか、私だけでなく、チームのみんなが自然と「ありがとう」を伝え合うようになりました。「ありがとう」は、また次の「ありがとう」を生むのです。

最後の中総体で勝つことはできませんでしたが、私たちは互いに声を掛け合い、尊重しあえる最高のチームだったと胸を張って言えます。「ありがとう」は口にする方も、受け取った方も幸せになる、魔法の言葉。改めてそう思いました。

「ありがとう」の反対は、何だと思えますか？答えは「当たり前。」そのことを道徳の授業で学んだとき、私ははっとしました。相手がいてくれること、してくれることを「当たり前」と思わず、感謝すること。それは、相手を尊重することでもあります。簡単で身近な言葉過ぎて、つい疎かにしてしまいがちな「ありがとう。」でも、簡単で身近な言葉だからこそ、惜しみなく、伝えてみませんか？誰に対しても、思いを込めて。これからも私は伝え続けていきます。

皆さん、今日は私の話を聞いてくれてありがとうございました。

● プロフィール ●

好きなことやもの

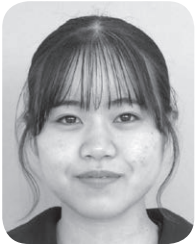
好きなことは、体を動かすことやスポーツをすることです。陸上やバレーボールをやってきて、体を動かすことが楽しいと感じたことがきっかけです。他にはおかし作りも好きです。

苦手なことやもの

苦手なものはグリーンピースです。なぜ、苦手かは分からないけれど、幼稚園のころから苦手で、よく給食でも残してしまいます。

将来の夢

私の将来の夢は、まだ決まっていませんが、人を笑顔にできるような人になりたいので、まずは、自分が笑顔で人に接していきたいです。



優良賞

「経験値0」からの出発

栗原市立若柳中学校 2年 ^{たか}高 ^{はし}橋 ^{ひなた}陽

指揮者のタクトがあがり、息を吸い込む。周囲の呼吸に耳を澄ませて、私もはじめの音を吹き始めます。うねるように重なっていく音楽と、私たちは一体になっていきます。その心地よさはきくと聞いている人たちにも伝わっていくでしょう。

吹奏楽を始めてよかった。投げ出さなくてよかったと、この瞬間にそう思いました。

2021年、ヤマギンホール。私たちは東北大会の舞台に立っていました。去年はコロナ禍で大会自体が中止。今年は、東日本大会を目指してこの大会に臨んでいます。結果は金賞でしたが、残念ながら上の大会には進めませんでした。しかし、私はとても大きなものをつかめたと感じています。

小学校で金管バンドクラブに所属していた私は、中学校でも楽器を続けたいと考えていました。しかし、若柳中学校の吹奏楽部は練習が厳しい、という噂が耳に届いています。どんな練習をするのだろう。先輩たちとうまく付き合えるのかな。本当に3年間続けることができるか心配だね。そんなことを友達とよく話していました。中には、自分にはできないと思いから、別の部を選ぶ、という人もいました。結局、私は続けたいという思いの方が上回って、吹奏楽部への入部を決めたのです。

小学校では打楽器を担当していたので、ホルンを吹くように言われたときにはとまどいました。吹くときの指の動きが分からない。今どの音程を吹いているのかも分からないのです。一緒に入部した友達にできていることが、私にはできないのだということがとてもショックでした。差がついてしまったと感じると、くやしくて不安でどうしたらいいのか分からなくなってしまい、私は部活の時間が憂鬱でたまりませんでした。

「疲れた」「眠い」「吹けない」

話す言葉はいつもネガティブで、できない自分への怒りと情けなさでいっぱいでした。

しかし、そんなある日の練習で、ふと気づいたのです。同じ部の仲間は、いいわけをしていないことに。

できないところがあれば、何度も繰り返して練習し、つらくとも笑顔で接してくれます。

私は自分で自分を駄目にしていないのではないかと、ハッとしました。よりよい自分を作っていくのは自分自身なのです。ネガティブな言葉ばかり使っていても、良くなるはずがありません。

このままではいけない。頑張っている自分を、自分

が認めていくことから始めよう。そう思いました。

コンクールのステージを終えたとき、いつになってもできないと感じていたあの曲のフレーズは、自分でもびっくりするほど自然に吹けたことに気づきました。入部したばかりの「経験値0」だった私が、頑張ればできるようになる。本当に、諦めなくてよかった。私は、笑顔で大会を終えることができました。

つらいとき、苦しいとき、私たちはどうしても自分を責めてしまいがちです。ですが、ネガティブな言葉からは解決の糸口を見つけにくいのではないのでしょうか。

ちょっと立ち止まって、冷静に振り返れば、頑張っている自分に会うことができるはず。小さな努力かもしれない。でもそんな努力の積み重ねが、きっと自分を強くしてくれるのだと思います。

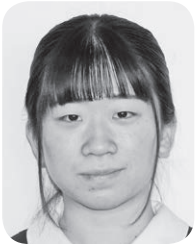
始まりは小さな一歩から。まず踏み出すことが大きな始まりです。

● プロフィール ●

好きなことやもの ディズニー、ホルン、からいもの。
遠くに旅行に行ったり出かけたりすること。

苦手なことやもの 鳥、泳ぐこと。

将来の夢 ウェディングプランナー。
たくさん笑顔があふれる場所で働きたい。



優良賞

「学校が楽しい」と言えるように

加美町立宮崎中学校 3年 早坂美優

2021年10月、文部科学省は「令和2年度、小中学校における不登校の児童生徒数が19万人を超え、過去最多となった」という調査結果を発表しました。その要因は家庭や本人に係るものなど様々ですが、特に友人関係をはじめとした学校に係る問題が多いそうです。そうした学校に係る問題を解決し、「学校が楽しい」と思えるように、私は宮崎中学校で行っている「魅力ある学校づくり」を皆さんにお勧めします。

私は「魅力ある学校づくり」に出会う前、周りの何気ない一言で傷つき、「学校が楽しい」と思えない時期がありました。そのため、「私のような思いを誰にもさせたくない。笑顔あふれる学校にしたい」と副会長に立候補し、生徒会に入りました。しかし、日々の忙しさで行動に移すことができず、私は無力さを感じていました。そんなとき、先生から次のような話がありました。

「今、加美町の小中学校で『魅力ある学校づくり』という事業を行っているんだ。今までは、みんなが学校に来たくなるように先生たちで頑張ってきたが、来年度は先生、生徒全員で目指していきたいと思う。そのために、ぜひ生徒会の力を貸してほしい。」

私はこの話を聞き、「これはチャンスだ。私が目指していた笑顔あふれる学校にするためにも、この『魅力ある学校づくり』を頑張ろう」と決意しました。

まず、私たちは「魅力ある学校づくり」のオリエンテーションを行いました。「魅力ある学校」とはどんな学校か。そのために自分は何ができるかを一人一人に書いてもらい、玄関に掲示しました。「明るく元気な学校」「全校生徒が協力し合える学校」など生徒と先生方の考える「魅力ある学校」がずらりと並び、「私にできることを精一杯やろう」という思いが一層強くなりました。

その後、生徒会で何ができるかを話し合う機会があり、私は「宮中フラワーガーデン」という活動を提案しました。それは全校でお互いの良さや頑張りを見つけ、それを花の形の付せんに書いてパネルに貼るという活動です。これまで宮中では、帰りの会で今日頑張った人を称え合う活動をしてきました。そこで感じた嬉しさや安心感を今度は全校に広げたいと思ったのです。最初はなかなか花を貼る人がいなかったため、私達生徒会が率先して書くようにしました。すると、それを読む人や「自分のことが書かれた」と喜んでいる人の姿が見られるようになり、「いつも助けてくれてあり

がとう」「部活と勉強、頑張ってるね」など1枚また1枚と花も咲き始め、笑顔も増えていきました。

他にも、生徒会では全校の意見を聞き、それを学校生活に生かす「シェアボックス」という活動を行いました。また、先生方は私達の相談に親身になってくれたり、仲間と安心して楽しく活動できるように「p4c」という活動を取り入れてくれたりと、宮中全員で「魅力ある学校」を目指して頑張りました。その結果、昨年度3回行われたアンケートの「学校が楽しいか」という問いで「楽しい」「どちらかという楽しい」と答えた人の合計が、どの学年も90%を超えたのです。

私は今回の経験を通して、先生と生徒が力を合わせて「魅力ある学校」を目指して頑張ること、そして、その中で互いの良さや頑張り認め合える関係をつくるのがいかに大切かを実感しました。

宮崎中学校は今年度で閉校となるため、最後の1年となりますが、昨年度のアンケート結果に満足せず、全員が笑顔で学校生活を送れるように、そして、次の学校でも「魅力ある学校」をつくれるように、最後まで一丸となって頑張ります。全員が心から「学校が楽しい」と言えるように……。

● プロフィール ●

好きなことやもの

私は卓球が好きです。小学生の頃から、母やコーチの指導の下、日々練習に励み、中学校では女子卓球部部長として頑張ってきました。また、料理をすることが好きです。特に、母と夜ご飯を作ったり、お菓子を作ったりすることが楽しくて大好きです。

苦手なことやもの

苦手なことは走ることです。偏平足ということもあり、長時間走ったり、運動したりすると、痛みが出てしまうため、苦手だと思うようになりました。しかし、仲間と協力して運動したり、リレーをしたりするのは楽しくて好きです。

将来の夢

将来の夢はまだ確定していませんが、ヘアメイクやメイクアップができるような、美容系の道に進もうと思っています。そのため、高校卒業後は専門学校に入学して、早く両親に恩返ししたいと考えています。